

基本政策2 生活環境

目指す姿1 犯罪・事故のない地域の実現

“四つの元気”



犯罪被害者週間「県民のつどい」



春の全国交通安全運動



除排雪団体による活動



施策の方向性① 防犯意識の向上と防犯活動の促進

刑法犯認知件数は全国最少レベルで推移しているものの、少子高齢化に伴う地域の防犯力の低下が懸念されることから、犯罪の防止に向けた県民一人ひとりの意識の向上と地域住民による自主的な活動を促進します。

【主な取組】

- (1) 様々な機会を活用した防犯情報の提供
- (2) 自主防犯活動の活性化に向けた支援

施策の方向性② 犯罪被害者等への支援

犯罪被害者等が必要とする支援は、被害の状況等により多岐にわたることから、実情に応じたきめ細かな支援を行うとともに、県民が犯罪被害者等に対する関心と理解を深め、支えていく気運を醸成します。

【主な取組】

- (1) 犯罪被害者等に対する県民の理解を促進する啓発活動の実施
- (2) 犯罪被害に関する市町村の相談対応力の強化への支援
- (3) 性暴力被害に関する総合的なワンストップ支援の実施

施策の方向性③ 「人優先」を基本とした交通安全対策の推進

歩行者が被害に遭う交通事故の発生が続いていることから、高齢者、障害者、子ども等の交通弱者の安全を確保する意識を醸成し、交通事故の発生を抑制します。

【主な取組】

- (1) 福祉分野との連携による高齢者に対する交通安全意識の啓発
- (2) 季別の交通安全運動、飲酒運転追放県民運動等の展開

施策の方向性④ 総合的な雪対策の推進

人口減少・少子高齢化に伴い地域の除排雪の担い手が減少していることから、住民同士の協力等による除排雪活動を促進するとともに、除排雪作業中の事故の発生を抑制します。

【主な取組】

- (1) 地域の除排雪に取り組む団体・組織の設立、活動等への支援
- (2) 除排雪作業における安全対策に関する啓発
- (3) 民間団体等との協力による地域を越えた除排雪支援体制の構築

施策の方向性⑤ 自立した消費者の育成と消費者被害の防止

特殊詐欺、悪質商法等の手口の巧妙化や消費生活のデジタル化の進展など、消費者を取り巻く環境が目まぐるしく変化していることから、県民一人ひとりが、被害の防止に向けて自ら考え、行動する自立した消費者となるための消費者教育を推進します。

【主な取組】

- (1) 高齢者に対する特殊詐欺被害の防止に向けた啓発
- (2) 世代等に応じた消費者トラブルの防止に向けた啓発

成果指標

指標名	単位	実績値		目標値				出典
		2019	2020	2022	2023	2024	2025	
① 刑法犯認知件数	件	2,162	2,382	前年比減	前年比減	前年比減	前年比減	県警察本部調べ
② 犯罪被害者等に対する関心と理解を深めるイベント等への参加者数	人	250	164	275	300	325	350	県調べ
③ 交通事故死者数	人	40	37	27以下	27以下	27以下	27以下	県警察本部「交通統計」
④ 交通事故重傷者数	人	250	251	200以下	200以下	200以下	200以下	県警察本部「交通統計」
⑤ 除排雪団体数(累積)	団体	46	51	65	70	75	80	県調べ
⑥ 県・市町村消費生活センターにおける消費生活相談員の資格保有率	%	64	67	75	75	75	75	県調べ

目指す姿2 快適で暮らしやすい生活の実現

“四つの元気”



命の教室



秋田県動物愛護センター「ワンニャピアあきた」

ワンニャピアあきた
オフィシャルマスコット
「あきちゃん」(左)
「はちすけ」(右)



施策の方向性① 食品の安全の確保と水道事業の基盤強化への支援

HACCP※に沿った衛生管理が制度化されるなど、食品や水道水の安全性の向上が一層求められていることから、食品事業者による自主的な衛生管理等を促進するとともに、市町村等が安全な水道水を安定して供給できるよう支援します。

※HACCP（ハサップ）：危害（Hazard）、分析（Analysis）、重要（Critical）、管理（Control）、点（Point）の頭文字による略語。食品等事業者自らが、食中毒汚染等の危害要因を把握し、原材料の入荷から製品の出荷に至るまでのリスク管理を行う衛生管理手法。

【主な取組】

- (1) 食品事業者によるHACCPの導入等への支援
- (2) 生産者・食品関連事業者・消費者による食品の安全・安心に関する地域懇談会の開催
- (3) 市町村等による水道施設の耐震化、広域連携等への支援

施策の方向性② 生活衛生関係営業者への支援

県民生活に密接に関係している生活衛生関係営業の経営の健全化等が求められていることから、営業者による経営基盤の強化に向けた取組を支援します。

【主な取組】

- (1) （公財）秋田県生活衛生営業指導センターが行う経営相談、融資指導、後継者育成等への支援
- (2) 生活衛生関係営業施設の衛生水準の維持向上等に向けた指導

施策の方向性③ 人と動物が共生する地域づくり

動物愛護に関する県民の関心や行政への期待が高まっていることから、動物愛護センターを拠点とした“動物にやさしい秋田”の実現に向けた取組を推進します。

【主な取組】

- (1) 動物愛護団体等との協働による犬猫の殺処分ゼロに向けた適正飼養の啓発と適正譲渡の推進
- (2) 動物愛護に関する取組や秋田犬等をテーマとした本県の魅力の発信

施策の方向性④ 空き家対策の推進

人口減少や少子高齢化の進行に伴い、適切な管理が行われていない空き家が増加し、周辺の生活環境に深刻な影響を及ぼしていることから、新たな空き家の発生を抑制するとともに、空き家の処分や流動化を促進します。

【主な取組】

- (1) 空き家の処分や活用に関するワンストップ相談窓口の設置
- (2) 空き家バンクの利便性の向上と空き家情報の発信の強化

施策の方向性⑤ 情報通信インフラ等の整備の促進

携帯電話やラジオ放送等を利用できない不感地域があるなど、情報通信における地域や個人間等の格差が生じていることから、これらの解消に向けた基盤整備を促進します。

【主な取組】

- (1) 市町村が行う携帯電話基地局の整備への支援
- (2) 市町村が行うラジオ放送中継施設の整備への支援
- (3) 県民がデジタル技術を身近に感じることができる環境の整備

成果指標

指標名	単位	実績値		目標値				出典
		2019	2020	2022	2023	2024	2025	
① 食品安全に関する研修会・懇談会等への参加者数	人	8,566	5,339	9,000	9,000	9,000	9,000	県調べ
② 秋田県生活衛生営業指導センターへの相談件数	件	513	318	430	430	430	430	県調べ
③ 動物愛護センターの入場者数	人	52,070	34,586	17,000	17,000	17,000	17,000	県調べ
④ 空き家の増加率	%	8.9	1.9	3.0	2.0	1.0	0.0	県調べ
⑤ 携帯電話のサービスエリア外地域の地区数	地区	31	28	25	22	19	16	県調べ

経過検証指標

・犬猫の殺処分数

出典：県調べ

・光ファイバーの利用可能世帯率

出典：総務省調べ

など

基本政策3 自然環境

目指す姿1 良好な環境の保全

“四つの元気”



水質分析のためのサンプリング



八郎湖水質保全
シンボルキャラクター
「清龍くん」



玉川酸性水中和処理施設

施策の方向性① 大気、水、土壌等の環境保全対策の推進

良好な状態にある本県の大気や水環境を維持するため、継続的なモニタリングを行うとともに、有害な化学物質による汚染防止等の環境保全対策を推進します。

【主な取組】

- (1) 大気、水、土壌環境等のモニタリングの実施
- (2) 工場や事業場の監視と指導の実施
- (3) PCBやアスベストなど有害廃棄物の適正処理の推進と秋田県環境保全センターにおける安定的な処理の実施
- (4) 能代産業廃棄物処理センターに係る環境保全対策の着実な実施

施策の方向性② 八郎湖・十和田湖・田沢湖の水質保全対策の推進

八郎湖、十和田湖、田沢湖は、長期にわたり水質環境基準を超過している状況にあることから、関係機関や地域住民等と連携しながら、湖の特性に応じた水質保全対策を推進します。

【主な取組】

- (1) 八郎湖における発生源対策やアオコ対策の推進
- (2) 十和田湖における汚濁負荷量の削減対策等の推進
- (3) 玉川酸性水の中和処理や田沢湖・玉川流域に関する継続的なモニタリングの実施

成果指標

指標名	単位	実績値		目標値				出典
		2019	2020	2022	2023	2024	2025	
① 大気環境に係る環境基準達成率（光化学オキシダント及びPM _{2.5} を除く）	%	95.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	県調べ
② 水環境（三大湖沼を除く公共用水域）に係る環境基準達成率	%	89.0	92.4	95.0	95.0	95.0	95.0	県調べ
③ 八郎湖のCOD75%値（湖心）	mg/L	9.0	6.7	7.2	7.1	7.1	7.1	県調べ
④ 十和田湖の透明度（湖心）	m	10.9	11.9	12.0	12.0	12.0	12.0	県調べ
⑤ 田沢湖のpH（湖心）	—	5.0	5.3	6.0	6.0	6.0	6.0	県調べ

目指す姿2 豊かな自然の保全



世界自然遺産白神山地



野生動物の出没抑制のための緩衝帯



クマ対策に関する出前講座



ボランティアによる登山道の補修



施策の方向性① 生物の多様性の確保と自然公園等の適正な管理

人々の生活を支える食料や水の供給、気候の安定など生態系から得られる恵みの源である生物多様性が失われつつある中、人と自然が共生する豊かで潤いのある秋田を実現するため、県民や関係組織等と連携・協働しながら、生物多様性の保全と持続可能な利用を進めるとともに、自然公園等の保護と利用の好循環を実現します。

【主な取組】

- (1) 生物多様性の理解の促進に向けた普及啓発活動の推進
- (2) 自然環境保全地域等における生物多様性の保全活動の推進
- (3) 自然公園施設等の適正な維持管理と美化清掃活動の推進

施策の方向性② 野生鳥獣の適正な保護管理と被害対策の推進

野生鳥獣の分布の拡大や生息数の増加により、人的被害や農林水産物被害が生じていることから、個体群・生息環境管理など、適正な野生鳥獣の保護管理に努め、被害の防止を図ります。

【主な取組】

- (1) 被害防除・捕獲・普及啓発を柱としたツキノワグマの被害防止対策の推進
- (2) ニホンジカやイノシシの捕獲強化とニホンザルやカワウ等の適切な被害防止対策の推進
- (3) 狩猟免許の取得や捕獲技術の維持向上への支援
- (4) 市町村による推進体制の整備や農作物の鳥獣被害防止対策の促進
- (5) 野生動物の出没抑制につながる里山整備の促進

成果指標

指標名	単位	実績値		目標値				出典
		2019	2020	2022	2023	2024	2025	
① 自然環境学習拠点施設等の利用者数	人	34,879	24,326	26,000	29,000	32,000	35,000	県調べ
② 狩猟者の登録数	人	1,689	1,694	1,750	1,800	1,850	1,900	県調べ